

Part 1: ネットワークプレーヤー編

株式会社ヤマハミュージックジャパン

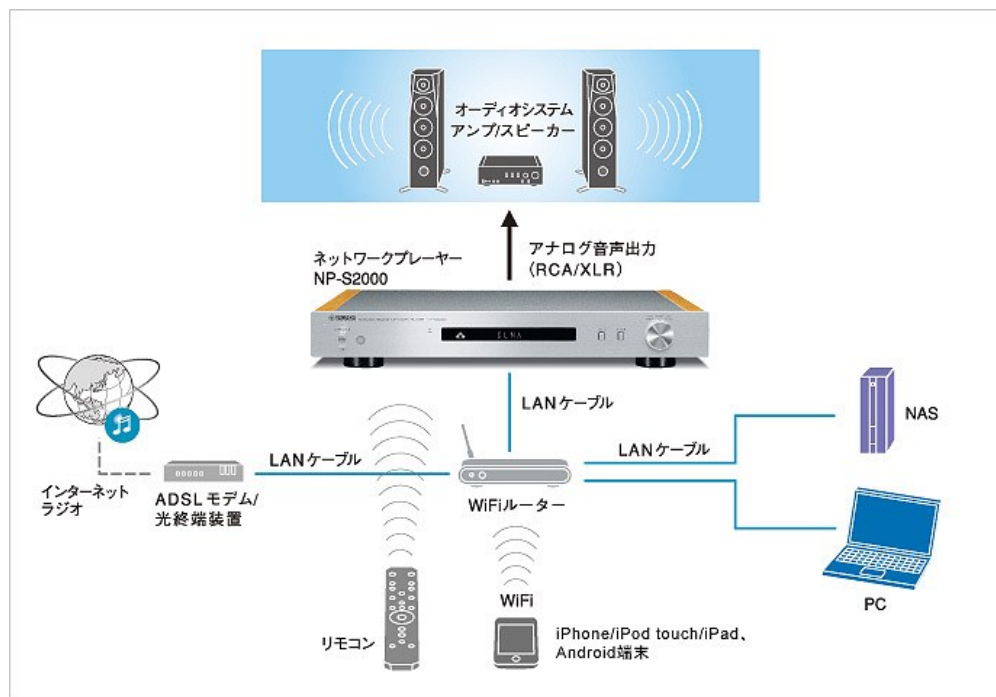
安井 信二

1. ネットワークプレーヤーとは

「PC オーディオ」という言葉が Web やオーディオ誌に登場して久しいが、業界としての統一されたカテゴリ名称が定まっておらず一般的にはまだ認知度が低いように思われます。これ以外にも Net オーディオ、USB オーディオ等の表現も見受けられ、一体何が違うの？という疑問を持たれる方も多いようです。

オーディオ再生における音源の記録媒体は過去レコード、テープ、CD という変遷をたどって最近では USB メモリー、SD カードとメディアの種類が増えていますが、PC に保存した音楽データを良い音で再生しようという動きが PC オーディオという言葉で表現され、その手法として USB DAC を使ったり、ネットワークを構築して専用プレーヤーで再生するという方法が登場しています。PC に保存された音楽データを USB 端子から外に導き出し、高性能な DAC を使ってアナログ信号に変換し音楽を楽しむスタイルが「USB オーディオ」再生であり、音楽データを専用のストレージ (NAS) に保存して専用プレーヤーで再生するスタイルが「Net オーディオ」再生の定義と区分されれば判り易いと思います。この専用プレーヤーのことをネットワーク (オーディオ) プレーヤーと呼んでいます

2. システムの構築



ネットワークプレーヤーを再生機器として使用するためにはネットワークを構築する必要がありますが、このネットワークを構築するところがやはり一般的にはハードルが高いとされているようです。

システム構築に必要な機器として、前ページに示した図のように無線 LAN ルーター、NAS（または PC）が最低限必要になりますが、最近ではオーディオ用に特化された NAS も用意されており接続、設定も随分と簡単になっています。気をつけなければいけないことは各機器の電源を入れる順番を守ることと、ルーターや NAS は基本的に一度電源を入れたあとは入れっぱなしにしておくこと。更に音楽データのバックアップをとっておくことも重要です。

3. 音楽データを NAS に溜める

PC の HDD に保存されている音楽データを NAS に移動して保存することによって PC と隔離したオーディオシステムを組むことが出来ます。1TB（テラバイト）の HDD なら WAV（PCM）形式の非圧縮データで CD アルバム枚数換算 1500 枚程度保存することが出来、FLAC 等のロスレス形式では 3000 枚程度まで保存出来ます。

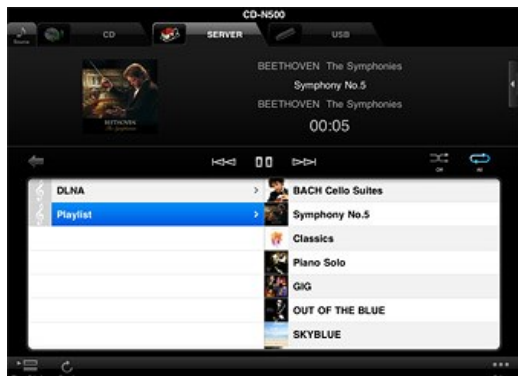
音質面では WAV と FLAC を比較すると WAV のほうが音が良いという意見もありますが、ライブラリーとして管理し易いのはロスレス形式になります。アルバムアート（ジャケット写真）や検索時に便利なタグ情報を追加出来るので、ライブラリーが膨大になると目的の楽曲を探す時に便利な機能となります。

4. 音楽データの取り込み

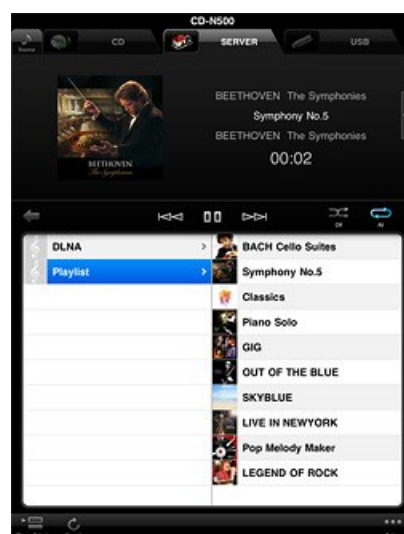
PC を使って音楽を取り込む方法として 2 通りの方法があります。手持ちの CD を取り込む場合はリッピングソフトを使って取り込みます。Windows であれば標準のメディアプレーヤー（WMP）、Mac なら iTunes が一般的ですが、これら以外にもフリーソフトでは EAC（イグザクト・オーディオ・コピー）、有料ソフトなら dBPoweramp 等が有名です。LP もフリーの波形編集ソフトを使って取り込むことが出来ますが、リッピングレベルの設定やノイズリダクション処理等が必要になります。一方で最近はやりのハイレゾ音源（CD フォーマットを超える規格）を音楽配信サイトからダウンロードして保存する方法もあります。国内では e-onkyo music、HQM store（KRIPTON）、OTOTOY、海外では Linn Records、HDtracks、2L 等が知られています。初めてダウンロードする時は不安があるかもしれませんが、画面の指示に従って手順通り行えば確実にダウンロードが出来る仕組みになっています。

5. ネットワークプレーヤーで再生してみる

NAS(または PC)に取り込んだ音楽データはファイル単位、フォルダー単位で管理されます。再生にはネットワークプレーヤー付属のリモコンを操作して目的のアルバムや曲を呼び出すことが出来ますが、操作性、視認性の面では専用アプリをスマートフォンやタブレット PC にインストールして手で画面を見ながら操作する方法が便利です。



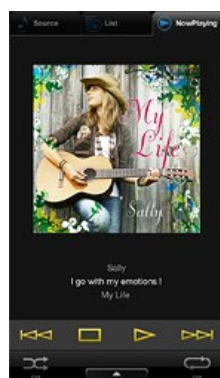
曲選択&再生画面（横向き）



曲選択&再生画面（縦向き）

6. アプリで操作

アプリをインストールした端末（スマホ、タブレット）をリモコン代わりに使うことで、聴きたいアルバムや曲を素早く呼び出すことが出来るようになります。更には端末に保存した音楽データも WiFi 機能を使ってネットワークプレーヤーで再生することが出来ます。



また、曲を再生中に次に聴きたい曲を呼び出しておくことも出来ますから、間をおかずに簡単に聴き比べも出来てしまいます。この便利さを一度体験すると音楽の楽しみ方も広がります。

7. ネットワークプレーヤーの音質は

CD を CD プレーヤーで再生する場合に比べネットワークプレーヤーではドライブメカが無いため機械的な振動ノイズやサーボコントロールなどの電氣的なノイズの影響が無いため音の傾向としては開放的な音になります。

その反面、システム全体で見れば NAS や LAN ケーブルを使う関係上メーカー毎の音質差が発生することも事実です。何故音が変わるかについて色々な見解、意見が散見されますが、オー

ディオの世界では何かが変われば音も変化するというので今まで発展、継続して来ていますから、この音の変化を楽しむことを楽しみと捉えたほうが良いのではないのでしょうか。

8. ネットワークプレーヤーの楽しみ方

ネットワークプレーヤーで最も手軽に楽しめる音源はインターネットラジオです。vTuner がサポートされていますから世界中に1万局以上あると言われているインターネットラジオ局（国内でも60局以上登録されている）から、ジャンル別にお好みのラジオ局を登録して様々な音楽やニュース等を楽しむことができます。音質的には64k-128k程度の圧縮フォーマットで放送されていますので、決して高音質というわけではありませんがBGM的に聞き流すには便利な機能と言えます。NAS等に保存された音楽を聴く場合も、複数のアルバムから聴きたい曲だけを選択してプレイリストに登録すれば連続して再生することができます。マニアックな楽しみ方としては同じ曲を異なったフォーマットで保存して、音の違いを確認することも可能です。

ライブラリーが増えた場合でもNAS等のストレージを最大16台まで接続出来ますので膨大なライブラリー構築にも対応しています。



9. ネットワークプレーヤーあれこれ

ここ数年で単体のネットワークプレーヤー以外にも様々な複合機が登場して来ました。当社では単体プレーヤーとしてNP-S2000以外にも、CDプレーヤーとネットワークプレーヤーを1台にまとめたCD-N500やネットワークAVアンプ等、他社ではこれら以外にもネットワークミニコンやネットワークレシーバ、HDD内蔵タイプ等、目的やライフスタイル、予算に応じて選択肢が広がって来ています。



NP-S2000



CD-N500



RX-V475

10. 音楽をより良い音で楽しむ喜び

オーディオ再生メディアの変遷、進化の中で誕生したネットワークプレーヤーですがファイル再生が最良の音か、と問われればイエスでもありノーでもあると言えます。LP等のアナログ再生と対極にあるネットワーク再生は、実はアナログ再生同様に音が変わる要素が存在します。レコード再生で音が変わる要素はカートリッジ、アーム、ターンテーブルシート、スタビライザー、フォノイコライザー等々ありますが、ネットワーク再生でもプレーヤー本体以外のNAS、LANケーブル、HUB、HDDかSSDか等々、音が変わる要素が沢山あります。もちろんネットワー

クプレーヤー自体の音質もメーカー毎の特徴がありますからシステムを構築する上で周辺機器も含めた組合せで好みの音を追求する楽しみ（苦しみ？）が残されています。

筆者略歴

安井 信二（やすい しんじ）

1974年入社。オーディオ畑一筋に30数年携わり1986年発売のデジタルサウンドフィールドプロセッサ-DSP-1開発時以来歴代AVアンプをはじめ数々のオーディオ機器の商品企画、音質対策に深く関わり「感動出来る音」を追求している。現在は(株)ヤマハミュージックジャパン AV流通営業本部企画室に所属し広報担当として主にコンポーネント製品の広報業務に携わっている。